



※防災対策の総仕上げ

これからの4年間、まず本市が取り組まなくてはならない課題は、防災対策の総仕上げがあります。

一昨年の東日本大震災は本市にとっても衝撃であり、防災対策を一から見直す事態となりました。県が発表した第4次被害想定によれば、駿河トラフ・南海トラフ沿いの地震での本市の被害は、最大で死者600人、全壊・焼失家屋1万5000棟となっています。

これまで進めてきた対策を検証するとともに、防災・減災対策の総仕上げに向け、更に活動してまいります。

※待ったなしの高齢化対策

防災対策とともに重要なものが、少子高齢化への対策です。これまで本市は、立地条件にも恵まれ、県内の市では2番目に人口増加率が高いまち、高齢化率も下から2番目の若いまちとなっています。しかしこれから4年間は、団塊世代が65歳以上を迎え、急速な高齢化が予想されます。

高齢化社会では当然、医療や介護といった健康・福祉体制の充実が急務となります。「中東遠総合医療センター」が開院しましたが、これからは高齢化社会を支える地域密着型の保険・医療・介護施設の整備を進めていかななくてはなりません。

※子育て支援体制の充実

高齢化対策とともに考えなくてはならない課題に、子育て支援体制の充実があげられます。市ではこの数年、保育所の増設、延長保育などを図ってきました。

子育て支援体制の充実とは、考えてみれば女性の社会進出、働く女性を応援していく施策でもあります。これからは量的な充足は勿論、幼児教育の内容に踏み込んだ質的充実も求められる時代になると思われます。

※新しい交通の時代に

昨年は新東名が開通し、新しい高速交通の時代が始まりました。更にこれから注目したいのが、国道1号線バイパスの4車線化と、袋井新駅舎の開設です。

バイパス4車線化は慢性渋滞を解消し、近隣市町とのアクセスを格段に向上させます。新駅舎は、南北分断状態を解消し、南部発展の先導役を果たすことが期待されています。

東西交通の要衝として栄えた本市、3年後の2016年は袋井宿開設400年の年にあたり各種事業も取り組まれます。この記念すべき年に、本市の将来の姿を託して行きたいものです。

※地域に文化、誇りあるまちに

市の直面する課題は多くあります。しかし、地域が本当に発展し、住みよいまちにするためには地域の独自の文化、特色ある資源を大切にしていくことも必要ではないでしょうか。

幸い本市には、遠州三山をはじめとする歴史資源や地域資源があり、米・茶・メロンといった食文化にも恵まれています。

これから4年間、課題をしっかりと見すえ夢に向かって進んで行きたいと思っておりますので、どうか皆さんの変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

健康スポーツ・**防災**の拠点づくり 新「総合市民体育館」の建設



▲移転・新設が計画される市民体育館。

高齢化社会に備えて 保健・医療・介護の拠点づくり



▲オープンした聖隷袋井市民病院。次は保健・介護施設へ。

まちの**活力**新しい交通の時



▲進む国道1号線の4車線化。



▲来年完成する新袋井駅舎。